

チーム医療

医師をはじめとする多くの職員の連携と協力による「チーム医療」

1. チーム医療に取り組んでいます

病院は、病める人を社会復帰させることを目的とし、医師をはじめとする多くの職員の連携と協力による「チーム医療」に取り組んでいます。

病院の中には、さまざまな業務があります。

医局・看護部・薬剤科・検査科・栄養科・事務部・医療相談科・放射線科リハビリテーション科などで働いている専門職種がチーム組んで、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した最新の治療にあたっています。

また、適切なアドバイスや必要な情報提供を行って早期社会復帰への手助けをしています。



2. 何故チーム医療が必要なのでしょう

患者さん個人によって病気の症状はそれぞれ違いがありますが、多くの方が身体的な苦痛と同時に心理的な問題や社会的な問題、精神的な問題を抱えています。例えば病気の再発はしないのか、薬に対する不安や退院後の食事はどうすれば良いのか、運動量はどの程度すればよいのか、または入院費の支払いが分割にできないか、仕事への復帰に対する不安や家族介護の不安等々抱える問題は様々です。患者さんがつらい症状や問題を乗り越えなければ社会復帰は困難な状況であると言えます。

そこで多職種が関わり情報を共有し、連携を図りながら協力することで、多方面の専門的な立場からの手助けを行なうことができます。これによって総合的に効率よくきめ細かい良質な医療を受けることができます。



3. チーム医療の実際

チーム医療の現場では、関わる専門スタッフが一人ひとりの患者さんの診断と治療方針を理解して今後の目標について話し合いを行います。話し合いは、電話の場合や会議をする場合もあります。

この目標は、どの医師あるいはスタッフに聞いても皆同じであることが大切です。そして自分達の役割を確認します。また、それをお互いにどのように協力していくかを十分に話し合います。

現場で行われているチーム医療の実際を幾つかご紹介します。



【栄養サポートチーム】

人は口から食べ物をとってそれを栄養として生きています。しかしその当たり前のことがなんらかの原因で出来ない、あるいは食べる量が減ってきた時どうすれば良いのでしょうか。

栄養サポートチームは、入院中の栄養不良の患者さんを洗い出し、その方は現在どうして栄養不良なのか、どうして食べられないのかという原因を調べます。例えば、食事の形態は適しているのか、咽頭に麻痺はないのか、口腔内に異常はないのか等々いろいろな視点から確認していきます。

またどんな栄養素が足りないのか。カロリーは足りているのか。という観点から、それに合った食事、栄養を検討します。

すべての病気において、栄養管理をおろそかにすると治療の効果が減じてしまったり、合併症や副作用の頻度が多くなったりします。また、栄養状態が悪いと床ずれ（褥瘡）ができたり、食べ物や飲み物がうまく飲み込めないことにより肺炎（誤嚥性肺炎）を起こしたりします。

そのため、病態管理をする医師、看護師、食事の必要量や摂取量を評価し食事を調整提供する管理栄養士、薬の副作用・薬効・点滴などの管理をする薬剤師、食事の嚥下機能の評価を行う言語聴覚士などの各専門スタッフがチームを組みそれぞれの知識や技術を出し合い最良の方法で栄養支援をします。栄養サポートチームは、創傷治癒や床ずれ（褥創）の治癒を促進する効果や術後の感染症併発を減少させることにも効果を上げています。



【包括的呼吸リハビリテーションチーム】

包括的呼吸リハビリテーションチームは、肺疾患を持つ患者さんやその家族に対して、呼吸器に何らかの機能障害を持ちながらも、患者さんが自宅においてより快適な日常生活や社会復帰が送れることを目的として取り組んでいます。医師、呼吸理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師等が連携して、呼吸訓練や栄養サポート、適切な服薬指導、日常生活の指導など多方面から継続的に係わり、患者さん自身が障害を受容し前向きに生きようとする姿勢を持つことができるように支援しています。

【緩和ケアチーム医療】

緩和ケア病棟を持つ病院では、医師、診療内科医師、緩和ケアチーム専従看護師、認定看護師や薬剤師、管理栄養士、保健師などの専門家がチームを組み「がん」の患者さんがその人らしく過ごせるように、さまざまな視点からサポートしています。痛みを和らげるための「くすり」の使い方や処置について専門的立場からご提案します。必要に応じて日常生活環境を整える工夫や心理的支援も行ないます。

このように、各々の専門医療機関特有なチーム医療が実践されています。



4. チーム医療における専門職の役割

チーム医療における専門職の役割は、主に以下のようなことが挙げられます。

(1) 医師の役割



診断と治療方針を決定し自ら治療に臨み、チーム全体へ適切な指示を出します。患者さんやご家族へご理解いただくように病状説明を行い、同意を得たうえでの治療導入、処方を行い、治療効果を評価します。各部門とのコミュニケーションを図り、各職種がチーム医療を円滑に行うための環境を整える役割を担います。

(2) 看護職の役割



看護職の業務は、「保健師助産師看護師法」で規定されています。看護職は、患者さんやご家族が不満や悩みを打ち明けられる最も身近な存在です。チームの要として、患者さんの背景を理解し患者さんの身体的苦痛、精神的苦痛、社会的（経済的）、心理的な問題を捉える努力をします。また医師からの説明に十分にご理解が得られているのかなど確認する必要があります。患者さんやご家族からのメッセージの本質をキャッチして、必要な専門職への橋渡しと調整役を担います。

(3) 薬剤師の役割



患者さんの症状に応じて医薬品の名前、保管上の注意、効能、効果、副作用などについて正確な情報提供を行います。薬を正しく服用し期待された効果を発揮するため、予期せぬ副作用から自らを守るために服薬指導を行います。

(4) 医療ソーシャルワーカーの役割



病院の総合相談窓口となる職種です。入院費の支払いなど経済的不安や悩みについて相談を受けます。問題を的確に把握して、病院の内外を問わず患者さんの利益を最大限に考えて社会資源の活用ができるように支援を行います。

(5) その他の職種



保健師、管理栄養士、理学療法士・作業療法士・言語療法士、臨床検査技師、臨床工学士、ケアマネージャー、臨床心理士、医療事務なども必要に応じてチームへの参加を呼びかけて役割分担を行いプロフェッショナルな立場で助言や支援を行います。チームリーダーは、それぞれの役割の内容に応じて最も適切な専門職がリーダーシップをとります。

5. チーム医療で大切なこと

- (1) 患者さんご自身が主体性を持って、積極的にチームに参加していただくことが重要です。専門分野からの助言や情報について十分な説明を受け、納得された上で治療にご協力ください。
- (2) それぞれの職種間で良好なコミュニケーション（情報交換、情報の共有、連携、協力）が求められます。患者さんの状態の変化は、チームメンバーに即時お知らせいただくことが大切です。安易に不必要な情報までもチーム内に広がり不信感を抱かないよう個人情報の取り扱いに十分注意しています。
- (3) チームの目標が明確になっていることが重要です。患者さんご自身もこれを理解されて協力されることが大切です。一つの目標に向かって一緒に取り組むことで、チーム力が一つに集まり効率よく支援体制を進めることができます。

6. チーム医療の今後の方向性

近年の高齢化や生活習慣病の増加による疾病構造は変化しています。

病気になった時に地域のどこでどのような医療が受けられるのかといった不安や、退院後の在宅医療も含め、受けられる医療の流れはどうなっているのかといった医療機関相互の連携の姿は見えにくいという課題があります。

第5次医療法改正により、各々の医療施設の機能に合わせて、医療機関相互の連携や役割分担を行うこと。また、より効率的な医療提供体制を確立することで切れ目のない医療を提供し在宅生活への早期復帰を促すことが法律で定められました。地域における限られた医療資源を有効かつ効率的に活用し、安心して医療を受けられるようにするためには、院内だけのチーム医療だけではなく、地域医療連携の充実が求められています。

例えば、脳卒中に関しては急性期の医療を担う大病院の役割、回復期のリハビリテーションや治療を担う医療機関の役割、維持期のリハビリテーションを担う医療機関の役割、生活の場における療養支援を担う診療所の役割といったように医療機関の連携が充実しています。（地域医療連携パス）これらに於いても大きな意味でのチーム医療と言えます。

他には、がん、大腿骨頸部骨折、糖尿病なども地域医療連携が整備されつつあります。

今後は、超高齢化社会に投入していくわが国では、高齢者の対応は重要課題です。高齢者の場合多くの方は、病気は治っても入院中に筋力の低下が起り、要介護状態に陥るケースあります。今後は、ますます医療と介護等の連続したチーム医療の提供にも取り組んでいくことが求められています。

7. 終わりに

「チーム医療」は、専門職ごとにそれぞれの領域で役割と責任を果たすことで成り立ちます。21世紀の医療を担う専門スタッフは、高度な医療知識や技術に加えて、病院内にとどまらず、地域社会でも幅広く活動していくためのコミュニケーション能力の高い人材が必要とされます。そのため我々医療人は、豊かな人間性を養い品格と教養を身につける努力が不可欠です。

また、トータルヘルスケアの実現のために患者さんやご家族のチーム医療へのご理解と協力が今後の治療効果や闘病生活において大きな力となり得ると言えます。

【参考図書】

- 飯田修平：財団法人 東京都医療保険協会 練馬総合病院
新築落成記念「病院早わかり読本」第3版 医学書院 2006年

【HP 閲覧】

- 包括的呼吸リハビリテーションの実際
医療法人清和会 長田病院
<http://www.seiwakai.info/>
- 医療提供体制の改革の基本的方向
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0829-4a.html>
- M.D. アンダーソンがんセンターのチーム医療の概要
<http://www.mdacc-education.jp/team/>

